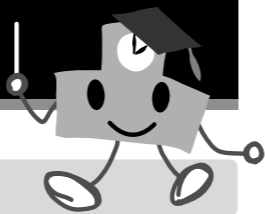


高校の事例 清田区 清田高校

3年間をととした環境学習。知識の習得だけでなく、自ら考え、行動するきっかけに。

学年に応じて、段階ある環境教育を実施。単体としての学習ではなく教科と結びつけながら、基礎知識と実体験をセットにして意識向上を目指す。札幌市の環境教育プログラム作成へ参加し、カリキュラム提供も。



内容 教科等による環境学習

本校では理科や総合的な学習の時間を利用し、環境についての学習に取り組んでいる。具体的な教科の例としては、1年生理科の中で、温暖化のメカニズムやCO₂の削減などについて学習し、それらの循環や影響を考える。また、1、2年生保健の授業では社会生活と健康、水質、土壌などについて学び、環境汚染による健康被害などについて考えている。3年生では集団生活と環境について学び、実際のフィールドワークとして森で観察を行い、樹木の吸収するCO₂量の計算や、川で簡易キットを用いた水質の調査を実施している。

総合的な学習の時間は年度により内容に違いはあるが、3年生の炊事遠足では前日にごみ処理場の職員の方を招いてごみの現状について講演を聞いたうえで、実施した。それにより買い物・炊事・後片付けをとおして、ごみの減量を念頭に置いた方法を考え、工夫して取り組むことができた。

単に教科についての知識を学習するだけではなく、それとおして自分たちの生活で起こっている環境問題について考えることができるような学習にすることが大切と考えて実施している。



簡易水質測定器

効果 日常生活でも環境への意識を高める

身近な森や川など自分の生活圏の中で観察を行うことで、実際に起こっている環境変化を実感しやすい。また炊事遠足等で実施に至るまでに事前学習を重ねておくことにより、実施時には生徒それぞれが意識を高くもつことができ、計画の段階からごみの減量に対して自発的に工夫して取り組むことができている。このごみ減量の考え方はそのまま実生活にも反映しやすいため、日常的に環境に配慮する意識をもつことにつながっている。



炊事遠足のようす

今後 生態系を守る心を育てる


炊事遠足やフィールドワークは移動・実施中を含めて怪我や事故の無いように注意が必要。また、実際に自然に触れながら学習する中では、生態系を壊さないための自然との付き合い方の指導も大切になる。これは1年生の時から学習の中で生徒へ意識付けており、教科の中での環境学習の成果といえると考えている。

本校は札幌市の環境教育プログラムの作成へ参加しており、授業の中で取り組めるものとして川の水質調査と森の樹木の自然観察についてのカリキュラムを提供した。授業の中で終わるのではなく、日常生活でも環境への意識を高め、生きる力を養ってくれるような学習をこれからも検討していきたい。



環境教育の手引き

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校からメッセージ

このような活動は、ただやるだけで終わるのではなく、事前学習や実施後の振り返りをしっかりやるのが大切と考えています。また、何を目的とするか明確にすることや生徒の成長のために学校の実態に合わせたプログラムを考えることも重要ではないかと思っています。